




平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 井手町立井手小学校 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2 実施対象者	井手小学校全児童；全11学級・205名 ※取組によっては、学年を限定して実施
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育科・総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・一流アスリートとの出会いの中で、運動への関心を高め、『さあやってみよう』という「スポーツごころ」を育てる。 ・オリンピックの指導を受けたことをはげみに、自身の記録に挑戦することによって、自信や希望を持って何事にもチャレンジする精神を育てる。 ・パラ競技選手との触れ合いを通して、障がいのある方の苦労や努力について知り、パラスポーツへの理解を深める。
5 取組内容	<p>(1) 井手町小学生陸上交歓記録会での交流（5・6年生／75名） <講師：京都産業大学陸上部員2名> ・翌日に控える陸上交歓記録会に向けての競技指導</p>   

(2) 井手町小学生陸上交歓記録会での交流 (5・6年生/75名)

＜講師：佐藤光浩さん/アテネ五輪・4×400mリレー＞

①事前指導：佐藤選手の活躍を収めたDVDの活用

②オリンピックとの出会い (陸上交歓記録会当日・10月23日)

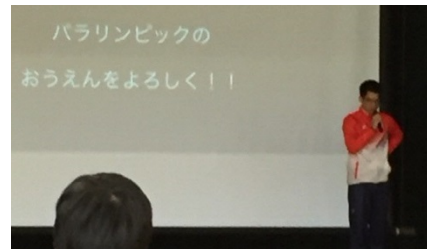
- ・準備運動、実技指導＜短距離走のスタート等＞



(3) オリンピアン講演会 (全校児童)

＜講師：堀越信司さん/リオパラ五輪・マラソン4位＞

- ・夢に向かって頑張ることや何事にも一生懸命に取り組むことの大切さについての講話
- ・校内マラソン大会に向けての練習方法の指導



(4) ボッチャ体験

＜南山城支援学校児童との交流＞

- ・パラリンピック競技ボッチャの体験



6 主な成果

- ・「今までに知らなかった専門的なトレーニングができてうれしかった」「陸上選手がどんなことに気をつけてトレーニングをしているのかを初めて知った」等の感想が聞かれ、陸上競技に関する知識を深めることができた。(1)
- ・事後の児童の様子から、「有名な選手と一緒に体操ができてうれしかった」「教えてもらったことを意識してやったら、100m走のスタートがうまくできた」など様々な感想が聞かれ、交流の成果がみられた。(2)
- ・「目標を持って努力することが大切だと思った」「教えてもらった速

	<p>く走るコツをマラソン大会でも試してみたい」「東京パラリンピックが楽しみ」「メダルにもユニバーサルデザインが適用されていることを初めて知った」などの感想が多くあり、競技に関する知識を深め、パラリンピックへの関心を高めることができた。(3)</p> <p>・「チームの中で作戦を立てることが楽しかった」「思っていた以上に頭を使う競技だと思った」「東京パラリンピックで実際の競技を見たい」等の感想が聞かれ、パラリンピックへの関心を高めることができた。(4)</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックとの出会いを効果的にするため、事前指導を実施した。(2)(3) ・オリンピックのスケジュールに合わせて、全体のプログラムを変更し、交流の時間を十分に確保できるようにした。(2) ・指導していただいたトレーニング法を、体育科の指導に取り入れた。(1)(2) ・全員が体験できるように、チーム対抗にした。(4)
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・講師として来てもらうオリンピックの選定や、日程調整等の事務手続きが大変である。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のスポーツへの関心や運動への意欲、障がい者スポーツへの理解を高める上で、とても効果的な取組であり、来年度以降も継続していきたい。